

通級指導教室 自立活動学習指導略案

自閉症・情緒障害通級指導教室，LD・ADHD等通級指導教室（あけぼの教室）

4人（5年男子2人，女子2人）

指導者 T1 佐藤 貴美子 T2 有迫 知美 T3 秋野 麻衣子

1 活動名 世界に一つのおもちゃを作ります！ ～みんなで計画・実行～

2 活動の目標

- 友達によさに気付いたり，伝え合うためのよりよい方法を見付けたりすることができる。
- 自分の役割を理解し，協力して活動することができる。
- 話合いの手順やルールを理解して，積極的に活動することができる。

3 活動設定の理由

対象となる子供4人は，自分の興味のあることについて雑談をしたり，得意なことを生かしながら物作りをしたりすることを通して，自分から話し掛けたり，一緒に作ったりする姿が見られる。しかし，関わりをもつ中で，やり取りにぎこちなさが見られたり，集団の中でも状況に応じた行動ができなかったりすることがある。また，自分の思いを相手に伝えたいという気持ちをもっているにも関わらず，それをうまく言葉や態度で表現できずに，誤解を招いてしまったり，我慢をしたりすることも多い。

そこで，おもちゃ作りの活動を設定し，一緒に取り組む中で，互いのよさや頑張りを認め合ったり，おもちゃが出来上がるまでのよりよい方法を助言し合ったりすることによって，他者と関わる楽しさを感じることができるようになる。また，自分にできることを理解し，自分なりの方法で関わり，みんなと協力して活動することができるようにする。さらには，手順やルールを理解して，話合いを重ねることで，安心感が高まり，積極的に活動に参加できるようにする。

この活動を通して，対象となる子供は自他の理解を深め，他者と関わることの楽しさを感じ，積極的に伝え合う意欲をもつことができると考える。また，自分の成長を実感したり，他者に認められたという喜びを味わったりすることで，自己肯定感を高め，生活を更に豊かにしていくことにつながると考える。

4 本時（7／9）

これまで子供たちは，「トイズファクトリー・あけぼの」の社員になるためのスキルを身に付けるトレーニングを行った。その後，依頼主（1年生）から依頼を受け，話合いを行った上で，試作品を作り，依頼主に届けた。本時は，おもちゃ作りの仕上げに取り組む。

(1) 目標

相手（依頼主・共同開発者）意識をもって，商品改善のためのよりよい方法を話し合い，おもちゃを上げることができる。

個人目標	A児	うまくいかないとき，気持ちを切り替えて，最後まで活動することができる。
	B児	友達によさを見付けたり，助言を受け止めたりして，活動を進めることができる。
	C児	話を最後まで聞き，友達のよかったところを伝えることができる。
	D児	自信をもって自分の考えを友達に伝えることができる。

(2) 指導に当たって






ア 「学び合い」の基礎となる「関わり合い」に視点を当てた授業づくり【研究内容1】

- 作ったおもちゃ（試作品）の改善点を話し合ったり，商品を仕上げたりする際に，自分の考えを伝えたり，友達の考えを受け止めたりすることができるような「関わり合い」の場を設定する（教示・援助，協力）。その際に，見ることを示すマークや，話型の提示をすることで，相手の顔に注目することや話題に沿って話すことなど「関わり合い」を充実させるためのスキルを身に付けることができるようにする。
- 依頼主（1年生）からの感想VTRを見て，作ったおもちゃ（試作品）の課題を明確にし，改良しなければならないという必然性を高めることで，「関わり合い」を通して，アイデアを出し合うことができるようにする。

イ 自己の学びを自覚するための評価活動【研究内容2】

- 活動を通して，「世界に一つのおもちゃ作りカード」（自己評価カード）を活用し，個人のため（「今日頑張ること」）や「関わり合い」について振り返り，自己の学びを自覚することができるようにする。

(3) 展 開 聞 く、 話 す、 見 る、 動 く は、「 関 わ り 合 い」 を 充 実 さ せ る た め の 活 動 ◆ 評 価 に 関 す る こ と ☆ は I C T 活 用 上 の 留 意 点

過程 (分)	子供に応じた具体的な手立て			
	A児	B児	C児	D児
つ か む ・ 見 通 す (8)	<p>主な学習活動と予想される子供の反応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前時までの学習について振り返る。 2 「世界に一つのおもちゃ作りのための大切なポイント」を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを伝え、相手の考えを受け止める。 ・ 話し合っ、決まったことを守る。 3 本時のめあてを確認する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 本時のめあてを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1年生が喜ぶ商品に仕上げるために、みんなで考えを出し合おう。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> (2) めあてを声に出して読む。 (3) 個人のめあて（「今日頑張ること」）を決める。 			
活 動 す る (27)	<ol style="list-style-type: none"> 4 活動の流れを確認する。 5 改善のための話し合いをし、商品を仕上げる。 <ol style="list-style-type: none"> (1) VTRを見て、改善点を確認する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">  感想を聞いて、1年生がもっと喜ぶためにどうすればよいかを、みんなで考えを出し合っ、仕上げよう。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">  飾りが、とれないよ うにしようね。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">  ○○さん、ここを押 さえてください。 </div> </div> <ol style="list-style-type: none"> (2) 改善点について、話し合う。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">  それは、いいね。色 も明るくしよう。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">  いいよ。協力して、 しっかり貼れたね。 </div> </div> (3) 話し合ったことを基に、商品の仕上げをする。 6 本時を振り返り、活動の感想や友達のとよかつたところを発表する。 <p>【評価活動】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">  1年生のことを考えて、 協力して最後まで活動す ることができました。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">  自分の考えをはっきりと 言うことができました。 </div> </div> 7 本時のまとめをし、次時の活動について知る。 <p>次回も協力して今日の続きを作り、おもちゃを仕上げましょう。</p> 			
	<p>子供に促した具体的な手立て</p> <p>○ 活動マップを提示することで、本時の活動への見通しをもたせることができるようにする。</p> <p>○ 「世界に一つのおもちゃ作りのための大切なポイント」は、何だっただかな。」と発問することで、「自分の考えを伝え、相手の考えを受けとめる」ことや「話し合っ、決まったことを守る」、「協力して作る」を想起することができるようにする。</p> <p>○ 「世界に一つのおもちゃ作りカード」（自己評価カード）を活用することで個人のめあて（「今日頑張ること」）を明確にもつことができるようにする。</p> <p>○ 「大切なポイント」と個人のめあて（「今日頑張ること」）を黒板に明示することで、常に意識して学習に取り組むことができるようにする。</p> <p>○ 話し合いの手順やルールを確認することで、安心して話し合いに参加したり、互いの考えをまとめたりすることができるようにする。</p> <p>☆ 依頼主（1年生）からの感想VTRを見せることで、試作品の成果や課題を明確にすることができるようになる。</p> <p>○ 各自の考えをカードに書かせ、可視化することで、みんなの考えをまとめやすくする。</p> <p>【見 る】</p> <p>○ 話し合いの進め方や態度を称賛することで、積極的にに関わりをもつことができるようになる。</p> <p>○ 話し合ったことを黒板に提示することで、決まったことに沿っ、活動することができるようにする。</p> <p>【動 く】</p> <p>○ 気持ちや落ちか、教師と一緒に、一旦その場から離れることで、最後まで活動に取り組みることができるようにする。</p> <p>○ 時計マークを提示することで、時間を気にしながら発言をすることができ、次の活動へ移ることができるようにする。</p> <p>○ 大切なポイント「協力して作る」について確認することで、友達の助言を受け止め、協力して活動を進めることができるようにする。</p> <p>○ 頑張りをやできたことを称賛することで、自信をもつて、積極的にに関わることができるようになる。</p> <p>○ 発表の仕方を確認することで、相手の話を最後まで聞き、カードを見て、自分の考えを伝えることができるようにする。</p> <p>○ 「なるほど」、「そうだね」などの言葉やうなずくことを意識させることで、相手の考えを受け止め、商品を仕上げることをできるようになる。</p> <p>○ 前時までの伝え合っ様子について称賛することで、自信をもち、考えを積極的に伝えることができるようになる。</p> <p>◆ 「世界に一つのおもちゃ作りカード」（自己評価カード）を活用することで、個人のめあて（「今日頑張ること」）を達成できたか自己評価することができるようにする。また、よさを伝えるための「いいね札」を使うことで、互いの頑張りをやよさを相互評価できるようにする。</p> <p>【聞 く】</p> <p>○ 活動を通してよかつたところを称賛することで、話すことや作ることへの自信を深め、次回の活動へ生かそうとする思いをもつことができるようにする。</p>			

「関わり合い」想定シート

○ 活動名 世界に一つのおもちゃを作ります！ ～みんなで計画・実行～（7／9）

○ 本時の「関わり合い」における個人目標

A児	うまくいかないとき、気持ちを切り替えて、最後まで活動することができる。
B児	友達よさを見付けたり、助言を受け止めたりして、活動を進めることができる。
C児	話を最後まで聞き、友達よかったところを伝えることができる。
D児	自信をもって自分の考えを友達に伝えることができる。

○ 本時の「関わり合い」の場面

教師の手立て

5 改善のための話し合いをし、商品を仕上げる。



話し合いのルールを守って、改善点について話し合いたいね。1年生を笑顔にしたいね。

「改善点の確認」について

飾りがとれて、何回も遊ぶことができなかつたよね。ならば方もよく分からなかつたみたいだね。

※気付いたことを伝える。(A・D児)



1年生に喜んでもらうために、話し合いをし、協力して商品を仕上げよう。

※活動への意欲を示す。(A・B・C児)



「改善点の話し合い」について



司会の〇〇です。相手の話をよく聞いてから自分の考えを發表してください。話し方が分からないときは、おたすけボード(話型)を見てください。では、改善点について話し合います。まずは自分の考えをカードに書きましょう。

※話し合いを進める。(D児)

～だったから、～して、それから～すると思います。

※自分の考えを伝える。(A・B・C児)



〇〇さんの考えは、自分の考えに似ているな。△△くんの考えは、どんな内容だろう。

※自分の考えと友達の考えを比較する。(B・C児)



ぼくは、〇〇さんの考えの方がいいなと思いました。

※友達の考えを受け止める。(C児)



わたしは、〇〇がいいんだけど、みんなの考えを聞いて、□□に変えたいと思います。

※自分の気持ちを切り替える。(A児)



「商品の仕上げ」について

話し合って決まったことを見ながら、分担したり、協力したりして、商品を仕上げていきましょう。時間は、〇〇分までです。

※決まったことを確認し、次の活動に導く。(D児)



〇〇くん、支えてくれて、ありがとう。次は、私が支えるから、色をつけてね。

※交代・協力する。(A・D児)

□□さん、教えてくれて、ありがとう。あと少しで、完成だ。みんなで、頑張ろう。

※助言を受け止める。(B児)



〇〇さん、ここは、のりより、接着剤で止めたほうがいいよ。

※教示・援助(C・D児)



必要に応じて、話型を提示することで自信をもって話し合いに参加できるようにする。

(A・B・C児)

拍手する、「すごい。」と教師が声をかけることで、子供が相手を認める姿勢や態度に気付くことができるようにする。

(A・C児)

話し合いの進め方を教師が例示することで、話し合いが活発になるような言葉を言うことができるようにする。

(D児)

友達の考えと自分の考えを比較できるように、「どうしてそう思うの?」と根拠を問う。

(A・C児)

積極的に友達と関わることができるように、友達と関わっている子供の言動を大いに称賛する。

(全員)

個人のめあてが達成できるように、活動ごとにできたことを称賛する。

(全員)